



がっこうだより

枚方市長尾西町2丁目45番1号 TEL050-7102-9176
E-mail nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp
URL https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/6-1-0-0-0_2.html

枚方市立西長尾小学校 令和6年 7月18日号

<西長尾小学校のめざす児童像>

1. 心豊かな子ども（自他を大切に
する、思いやりのある子ども）
2. 深く考える子ども（自ら学び、
創造的な思考を持ち、柔軟に行動
できる子ども）
3. 健康な子ども

主体的な学びの機会をつくる夏休み

—— 自由課題のとりくみについて

本校の図書室の入り口横の掲示板に「自学自習コーナー」という掲示板があります。先日の児童朝会で、そこに掲示されている自学自習ノートの一部を紹介しました。集会の後、幾人かの児童がその掲示を見に来ている様子を目にしました。子どもたちみずからの興味関心が、行動や成長への大きな動機付けになることをあらためて感じました。

右の写真のように掲示しています。自主学習の良さは、自分で課題を自由に見つけて、自分でそれを探求し、他者に伝えるために分かりやすく表現することです。



神社の鳥居をくぐったときに、境内に敷かれた石が丸いことに気づいて、「なぜだろう」と思い、その理由を神社の人に直接質問

した人。家にある動物のぬいぐるみの足を見て、犬や猫の肉球について関心を持って調べたノート。蛍を見に行こうと家族に誘われたときにふと、「蛍ってなんで光るのだろう、ふしぎだなあ」と思ったことがきっかけで、調べてまとめたもの等々。

上に紹介したノートには、日常生活の中でふと気になったことや、疑問に思ったこと、興味や関心が高まったことについてしっかり着目しているという共通点があります。その疑問を児童が自分の力で主体的に調べた内容が書かれているのです。その内容はとても生き生きしていて、教科書に載っていない、本

人にしか作れない生きた「問い」のもつエネルギーを感じます。それらの問いには、どうしても「知りたい」「分かってほしい」という、どうしようもない気持ちがあるのです。

これからの学びは、子どもたちのこうした主体的な姿勢を引き出す環境づくりが大切だと考えます。

さて、夏休みの宿題に「自由課題」を設けました。これは、これまでの「自由研究」とは意識するところが違います。作品をつくることを目的とするものではありません。

子ども自身が、自分で課題を設定し、それに取り組む過程を記録し、その成果（途中経過でもよいのです）を表現するのです。



<7月の児童朝会での給食委員会の活躍>

自由課題に取り組むコツは？

何よりも自分がやりたいことであるべきです。やりたいことには必ず動機（やりたい理由）があります。自分がやりたいことを書き出し、その理由も書いてみましょう。そして、計画を立てましょう。見通しが立たないときは、おうちの方や先生に相談してください。時間がかかることである場合は、夏休み中にどこまでできるだろうかという見通しを、できるだけ丁寧に考えましょう。

内容はどんなことでもよいのです。冒頭に示した、素朴な疑問の探求でもいいし、例えば、「ダンスの『ある技』ができるようになる」ことでもよいのです。それができるようになるための努力の様子を記録し、その工夫や努力、変化の様子をまとめていけば、立派な「自分の成長」という課題に本気で向き合った「自由課題」の記録となるわけです。

もちろん、例えば家族に喜んでもらうための、「何か」をつくりたい場合、その理由を伝えるように書き、作っていくようすや、その工夫を伝えるものが含まれていれば、工作物であってもかまいません。

完成させるための努力を見つめる内容をまとめるように心がければよいのです。

自由課題にとりくむコツ

- 1)じぶんが やりたいことを きめよう
- 2)やりたい りゆうや きっかけを かこよう
- 3)どのように とりくむのか かんがえ、けいかく(よてい)を たてよう
- 4)よてい どのおりに とりくみ、きろくしよう(しゃしんや え もつかおう)
- 5)ようすや とりくみが、ほかのひとにも わかるように、くふうしよう
- 6)なつやすみちゅうの とりくみを、まとめて、ていしゅつしよう
- 7)まわりのひとたちに つたわるような くふうなら、どのような かたちで ていしゅつ しても かまいません。

みなさんのがんばりのみえる自由課題への取り組みを楽しみにしています。この夏休み、一日一日を大切に、無事故で過ごしてください。

また、自分を大切に、家族を大切に、いい思い出をたくさん作りましょう。

☆ 7月のようす (西長尾小学校ブログより)

7月11日 4年生

漢字大テストの返却です。結果はそれぞれ様々ですが、テストまでに一生懸命がんばったことがよくわかりました。担任からも一人ひとりに表彰状が渡されていました。



7月4日 1年生

音楽
鍵盤ハーモニカを使って、指使いを学びます。
楽器を使い、自分の力で音を出す、実感を伴う学びは、これからの様々な学習と結びついていきます。



7月1日 2年生

国語『名前を見て ちょうだい』の課題プリントの確認をしています。

この作品は、出てくる「もの」や「場所」の色の表現が鮮やかに見えてくるように描かれています。

赤いぼうしに、青いししゅう、野原には白いすすきを持ったきつね。こがね色のはたけの上には青い空。そしてさいごには七色の林。自分の帽子だと思ったら別の名前が刺繍してあるという不思議な体験を何度も重ねるうちに、つい場所自体も不思議な世界へと変わってしまいます。七色の林の場面になったところで、読む人になんとか不思議な場所なんだと想像させるわけです。

そこで、えっちゃんが、ぐわあんと大きくなります。そのあたりの表現を決定的にリアリティを強くもたせるのが「たたみのような手のひら」という部分です。この部分を読む子どもたちは、えっちゃんの手の大きさを想像し、えっちゃんの大きさを頭の中に描きます。そのあとのひとことが、さらに力強さを増すのは、それまでの表現の力です。

頭の中に絵が描きやすいので、読み聞かせをすると、子どもたちはその不思議な世界の体験に、たいへん喜ぶお話です。

そして、最後の二行も、この物語のファンタジー(現実と非現実のさかいめに成り立つ世界)を支える大切な役割を果たしています。

このように、教科書に掲載されている物語には、子どもたちが様々な想像の翼を広げられるものがたくさんあります。



7月4日 6年生

理科

田んぼの水を顕微鏡でながめてみたら…。いろいろなプランクトンがあります。ゾウリムシを見つけた! との声に、みんな大興奮。



7月3日 3年生

図工

和紙のシャツを染めました。

折りたたむ場所や、たたみ方を変えると、様々な柄模様ができます。

「本物の白い服に染めたいなあ」「おしゃれな模様でしょ」子どもたちは「みてみて」と近寄ってきます。



7月1日 5年生

図工 ビー玉大冒険

みんなで考えて作ったコースが、それぞれ発展してすごいものになっています。

面白い動きに、びっくりする瞬間もありました。



☆日々の学校の様子は「枚方市立西長尾小学校ブログ」をごらんください。

このQRコードからどうぞ →

